

新図書館、(仮称)こども未来館、小牧駅周辺整備に関する要望書(ラピオ通り商店街振興組合)

- 1 今回の計画によりますと新図書館の年間動員予測は 30 万人、駅西の現在の稼働状況は年間 20 万台(1 台当り 1.5 人換算)です。予算 40 億を投資されるのですが、市民の駐車場はなくなり費用対効果を考えると駅前の活性化ではなく非活性化ではないかと考えられますがいかがでしょうか。
- 2 私共は現在の駐車場の需給バランスが、最善の状態であると考えますが、前回の市の説明では現在のバランスを大きく下回る時間帯が予測されます。今回の計画の成功を考えるなら駐車場問題は早期に解決しなければならないと思われませんが、駐車場の需給バランスの基準値と整備時期を明確に示してください。
- 3 駅西駐車場に魅力を感じ出店された事業者も多数おられますが、事前に説明をされた上での計画だったのでしょうか、また納得を得ていますか。
- 4 前回私共が提案した新図書館の地下駐車場を 1・2 階に変更する案は現在問題になっている案件をすべてクリアでき、また今後他の場所に駐車場を整備するよりも総合的に見て安価に整備できるものと考えますが、なぜ即答で否定されたのか理解できません。納得できる理由をお聞かせください。
- 5 こども未来館の整備に伴い周辺児童の来館人数の増加が予測されますが、町口 3 号線の完全歩道化や片町の信号機の設置が安全第一の観点から最優先事項と考えられますが、いかがなものでしょう。
- 6 現在の検討状況など地元民への説明会等はいつの段階でお考えですか。

(回答)

新図書館については、中心市街地の活性化につなげていくためにも

単にバリアフリーの観点だけではなく、図書館利用者が図書館周辺の商店などへ足を運びやすいようにすることや、中心市街地を歩いて周遊する方が気軽に図書館を利用しやすくするように施設配置を考慮する必要があると考えています。

また、多くの人を呼び寄せるためには、中心市街地のシンボリックな建物として周辺から見た景観も大切ですが、1階、2階が駐車場では、小牧の玄関の顔としては魅力に欠ける建物になるのではないかと考えています。

そのため、周辺道路の歩道からフラットに入れ、また外から図書館内部の様子がうかがえる地上部には図書館機能を配置し、駐車場は地下1階に配置することとしたものであります。

次に、小牧駅周辺の整備に伴い新たに確保すべき市営駐車場の検討につきましては、現在、その立地場所、収容可能台数、整備費、整備時期などの検討を行っており、未だ皆様方にお知らせする段階に至っておりません。本市では今後、人口減少・少子高齢化が進む状況のなかで、将来を見据えたまちづくりへの転換が必要となっております。中心市街地においては、駐車需要を適切に見通し、効率的な駐車場確保を引き続き実施する必要がある一方で、自転車や徒歩・公共交通を重視した自動車に頼らないで暮らせる環境にやさしい都市づくりも求められており、コミュニティバス(こまき巡回バス)についても、近隣市と比べ充実した運行を現在実施しているところです。

今後、駐車場に関する検討がまとまりました段階で、貴振興組合にご説明させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

なお、東春信用金庫跡地に3～4階建ての立体駐車場を建設するご提案につきましては、敷地の過半が第一種中高層住居専用地域であり、3～4階建ての駐車場は建築基準法により建築不可であることなどから、検討から除外させていただいておりますのでご了承ください。

次に、片町の交差点につきましては、周辺道路においてスピード抑制や事故防止を喚起する路面標示や案内看板を設置済であるほか、小牧警察署を通じて愛知県公安委員会に信号機設置の要望を既

に実施しております。

いずれにいたしましても、市といたしましては、コンパクトな都市構造への転換を目指し、交通結節点となる鉄道駅周辺に都市機能を集約することにより、小牧の顔にふさわしく、魅力あふれる中心市街地を形成できるよう努めてまいりたいと考えておりますので、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。